採痰室の開設に寄せて

このところ抗菌薬の適正使用が重視され、喀痰塗沫/培養の重要性が見直されています。病原微生物をつきとめるだけでなく、結核菌に感染しているかどうか、その確認は、個々の症例に対する適切な治療法の選択に加え、院内感染管理の点からも重要な意味を持っています。特に結核菌は空気感染（飛沫核感染）するため、喀痰を採取する過程で菌が周囲に伝播する懸念があり、外来における安全な採痰スペースの確保が望まれていました。

この度、当院でも新外来棟への移転に伴い、新たに採痰室が設けられ、稼働を開始しました。聞くところによると、採痰室が独立して設けられたのは、新潟県内の医療機関でも初めての試みのようです。採痰時の隔離と室内の空調の整備（陰圧空調）によって飛沫核の拡散を防ぎ、より安全に、そしてより確実に喀痰検体が得られるようになりました。病原微生物の拡散を防ぐとともに、患者様にとっても、周囲を気にせず、落ち着いて痰の喀出に集中できる環境が整ったものと思います。今後の活用が大いに期待されます。

（茂呂　寛）

新任教官紹介

検査部助教　茂呂　寛

このたび、7 月から検査部でお世話になっている茂呂寛（もろひろし）といいます。出身は茨城県の水戸市で、高校卒業までそこで過ごしました。大学から新潟にうつり、そのまま現在に至っています。平成 7 年に新潟大学を卒業し、第二内科に入局しました。専門は感染症です。感染症の分野は、特に検査との繋がりが深いように思います。各種臨床検体の塗沫と培養、血清学的な補助的検査、迅速診断法など、これまでにも、おりに触れてお世話になってきました。検査について、これから頑張って勉強していきたいと思っています。一方で、内科医として、感染症専門医として、自分なりに積み重ねてきたものを、何かお役に立てればと思っています。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

編集後記

検査部新外来棟移転から早４ヶ月が経ちました。新任の教官も加わり、大幅にリニューアルした検査部へぜひお越しください！
今後も検査部ニュースでは新しい分析機やシステムについてご報告させていただきたいと思います。

（佐藤　未来）

発行人　松戸隆之
部署　新潟大学医歯学総合病院
検査部